

平成25年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成25年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

I 調査の概要

1 目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査期日

平成25年4月24日（水）

3 調査対象

第6学年

4 本校の参加状況

- | | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| ① 国語A | 34人 | 国語B | 34人 |
| ② 算数A | 34人 | 算数B | 34人 |

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」、「指導改善のポイント」などの分析を併せて記載した。

II 調査結果の概要

1 国語

全体的な傾向

- ・ 国語B（活用）の平均正答率は全国平均より低く、特に「読むこと」「言語についての知識・理解」に課題がある。

<分類・区分別集計結果>

【国語A】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)	
			本校	全国
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	1	47.1	43.2
	書くこと	4	47.8	53.0
	読むこと	3	63.7	60.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	15	60.4	62.6
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	1	38.2	44.9
	話す・聞く能力	1	47.1	43.2
	書く能力	4	47.8	53.0
	読む能力	3	63.7	60.1
	言語についての知識・理解・技能	15	60.4	62.6
問題形式	選択式	7	66.8	66.3
	短答式	10	57.4	61.9
	記述式	1	38.2	44.9

【国語B】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)	
			本校	全国
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	3	59.8	64.8
	書くこと	4	36.8	43.8
	読むこと	4	29.4	47.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	55.9	63.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	2	35.3	42.5
	話す・聞く能力	3	59.8	64.8
	書く能力	4	36.8	43.8
	読む能力	4	29.4	47.9
	言語についての知識・理解・技能	1	55.9	63.8
問題形式	選択式	3	53.9	59.7
	短答式	5	32.9	45.9
	記述式	2	35.3	42.5

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【話すこと・聞くこと】

- A 選手宣誓文の表現の工夫とその効果を説明したものとして適切なものを選択する設問の平均正答率は全国平均より高い。
- B 領域の平均正答率は全国平均より低い。特に話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言をすることに課題がある。

【書くこと】

- A 接続語を使って1文を2文に分けて書く設問や「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、全体から分かることを書く設問の平均正答率は全国平均より低い。
- B 複数の内容を関係付けた上で、自分の考えを具体的に書く設問の平均正答率は全国平均より高い。
- B 領域の平均正答率は全国平均より低い。特に助言についての説明を書くことに課題がある。

【読むこと】

- A 領域の平均正答率は全国平均より高く、他の領域と比較しても高い。
- B 2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉える設問の平均正答率は全国平均より低い。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- A 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く設問の平均正答率は全国平均より低い。

国語に関する児童質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

- 「国語の勉強がすき」と回答した児童の割合は全国平均よりも低いが、「国語の勉強は大切である」を肯定的に回答した児童の割合は全国平均とほぼ同じである。
- 「読書がすき」と回答した児童の割合は全国平均よりも高い。
- 「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている」と回答した児童の割合は全国平均よりも低い。

指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

- ・話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言をする力を身に付けさせるために、話を聞く際におさえるべきポイントを提示し、聞き取るような活動を意図的に行う。

【書くこと】

- ・書くことへの抵抗感をなくすために、教材文に対する感想や意見をまとめたり、内容を要約したりする活動を多く取り入れる。また、行事等についての短作文を継続して書かせる。

【読むこと】

- ・いくつかの意見文などを読み比べて、その違いを明確にさせたり、自分の意見を持たせたりする活動を多く取り入れるようにする。また、他教科においても、自分の考えとその理由を表現する機会を意図的に設ける。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・漢字を書く力を身に付けさせるために、漢字の学習に楽しく取り組めるような指導法を工夫するとともに、既習の漢字を積極的に使うよう働きかける。

2 算数

全体的な傾向

- ・算数A（知識）、算数B（活用）ともに平均正答率は全国平均より低く、特に、「数量や図形についての知識・理解」に課題がある。

<分類・区分別集計結果>

【算数A】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)	
			本校	全国
学習指導要領 の領域	数と計算	8	73.5	80.2
	量と測定	4	67.6	68.3
	図形	3	57.8	72.5
	数量関係	4	71.3	83.4
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0		
	数学的な考え方	0		
	数量や図形についての技能	8	80.9	86.2
	数量や図形についての知識・ 理解	11	61.0	70.5
問題形式	選択式	8	61.4	68.2
	短答式	11	75.1	83.6
	記述式	0		

【算数B】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)	
			本校	全国
学習指導要領 の領域	数と計算	3	42.2	48.3
	量と測定	7	49.6	56.0
	図形	3	76.5	79.3
	数量関係	7	47.5	54.9
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0		
	数学的な考え方	8	43.8	46.8
	数量や図形についての技能	1	70.6	76.1
	数量や図形についての知識・ 理解	4	66.9	77.2
問題形式	選択式	4	69.1	73.8
	短答式	4	54.4	61.9
	記述式	5	38.8	43.2

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区別の傾向と課題

【数と計算】

- A 小数の加法の計算や除数と商と余りから被除数を求める式を選ぶ設問の平均正答率は全国平均より低い。

【量と測定】

- A 1 a (1アール) と等しい面積になる正方形の一辺の長さを選ぶ設問の平均正答率は全国平均より高い。
- B 示された式の値が何を表しているのかを書く設問の平均正答率は全国平均より低い。

【図形】

- A 領域の平均正答率は全国平均より低い。特に展開図に示された側面の長方形の辺の長さを求めることに課題がある。

【数量関係】

- A () を用いた整数の計算をする設問の平均正答率は全国平均より高い。
- A 割合に関する設問の平均正答率は全国平均より低い。
- B 示された式に数値を当てはめて計算し、計算の結果の大小を基に判断する設問の平均正答率は全国平均より高い。

算数に関する児童質問紙調査の状況

《傾向》

- 「算数の勉強がすき」と回答した児童の割合は全国平均よりも低いが、「算数の勉強は大切である」を肯定的に回答した児童の割合は全国平均より高い。
- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童の割合は全国平均より高い。
- 「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」と回答した児童の割合は全国平均より低い。
- 「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」と回答した児童の割合は全国平均より低い。

指導改善のポイント

【数と計算】

- ・ 小数の計算及びわり算のやり方を確認する。
- ・ 朝の学習や家庭学習等を利用して反復練習させることにより計算の力の定着を図る。

【量と測定】

- ・ 平均の求め方と式を確認し、示された式の値が何を求めているのかについて考えさせる場面を多くする。

【図形】

- ・ 基本的な図形の定義や性質についての理解を深めるために、図形の作図や図形を敷き詰めたり分割したりする活動など、作業的・体験的な活動を取り入れる。

【数量関係】

- ・ 四則の混合した計算の仕方を身に付けさせるために、基本的な計算のきまりを確認するとともに、様々な混合の計算問題に数多く取り組ませる。
- ・ 割合の学習に対する抵抗感をなくすために、身近な題材を取り入れながら割合を考えさせる機会を増やす。

3 児童質問紙調査

●…課題があるもの

《傾向》

○全国よりも高い項目

- ・学校図書室や地域図書館の利用
- ・学校で友達と会うのは楽しい
- ・夕食を家の人と一緒に食べる
- ・読書は好き
- ・家の手伝いをする

●全国よりも低い項目

- ・失敗を恐れずに挑戦している
- ・同じ時刻に寝る, 起きる
- ・家庭での学習, 読書時間
- ・地域行事への参加, 関心
- ・近所の人へのあいさつ
- ・将来の夢や目標をもっている
- ・TV視聴, ゲーム時間
- ・宿題, 学習
- ・学校の決まりを守る